

砂岩・礫岩の挟み)、玄武岩～安山岩質溶岩が累重し、これら3層の上下関係はいずれも不整合である。

第四系は、礫、砂及び崖錐堆積物からなる。

本地域には変質帯・鉍化帯は存在しない。

空中磁気の間強度帯及び中波長低異常域周縁部の重なる付近には、地域内では比較的下位の地層(上部新第三系・第四系)が分布するが、空中磁気異常と地質構造間に明瞭な対応関係は認められない

## 2-16 コドバ北地域

本地域の地質図をFig. 2-2-73に、模式地質柱状図をFig. 2-2-74にそれぞれ示した。

本地域の地質は、新第三系中新統・鮮新統、第四系更新統・完新統及び貫入岩類からなる。

新第三系中新統・鮮新統は、下部から含礫凝灰岩、細粒凝灰岩・火山灰、溶結凝灰岩・軽石凝灰岩の順に累重する流紋岩質のイグニブライトからなる。

第四系更新統・完新統は、礫及び砂からなる。

本地域の地表は、大部分がほぼ水平の厚い中新統イグニブライトに覆われている。本地域の基盤は上部白亜系の安山岩質の溶岩・火砕岩で、調査地域南方の深く解析されたビートル沢(Quebrada Vitor)流域に小規模に分布する。ここには上部白亜系を貫く石英閃緑岩の岩株が分布する。これらの上部白亜系及び石英閃緑岩は、新第三系中新統下部の多源礫岩に不整合に覆われ、この礫岩は新第三系中新統・鮮新統のイグニブライトに不整合に覆われる。

本調査地域には変質帯・鉍化帯は存在しない。しかし、調査地域南方の石英閃緑岩中には、カリ変質・セリサイト化を伴う石英細脈群が発達している。

空中磁気の間強度帯及び中波長低異常域周縁部の重なる付近に、特有の地質構造は認められない

## 2-17 ティグナマール北西地域

本地域の地質図をFig. 2-2-75に、模式地質柱状図をFig. 2-2-76に、変質鉍物分布図をFig. 2-2-77に、岩石地化学異常分布図をFig. 2-2-78にそれぞれ示した。

調査地域の北東方には、上部白亜系・下部第三系が分布し、安山岩質～流紋岩質の溶岩・火砕岩及び陸上堆積物の挟みからなる。

調査地域の地質は、新第三系及び上部新第三系・第四系からなる。

新第三系は、中新統・鮮新統のイグニブライト(流紋岩質溶結凝灰岩・軽石凝灰岩)からなり、上部新第三系・第四系に不整合に覆われる。

上部新第三系・第四系は、主として珪長質軽石凝灰岩からなる下位層と、玄武岩質～安山岩質の溶岩からなる上位層からなる。下位層は、玄武岩質～安山岩質溶岩・礫岩・流紋岩の各薄層を挟む。

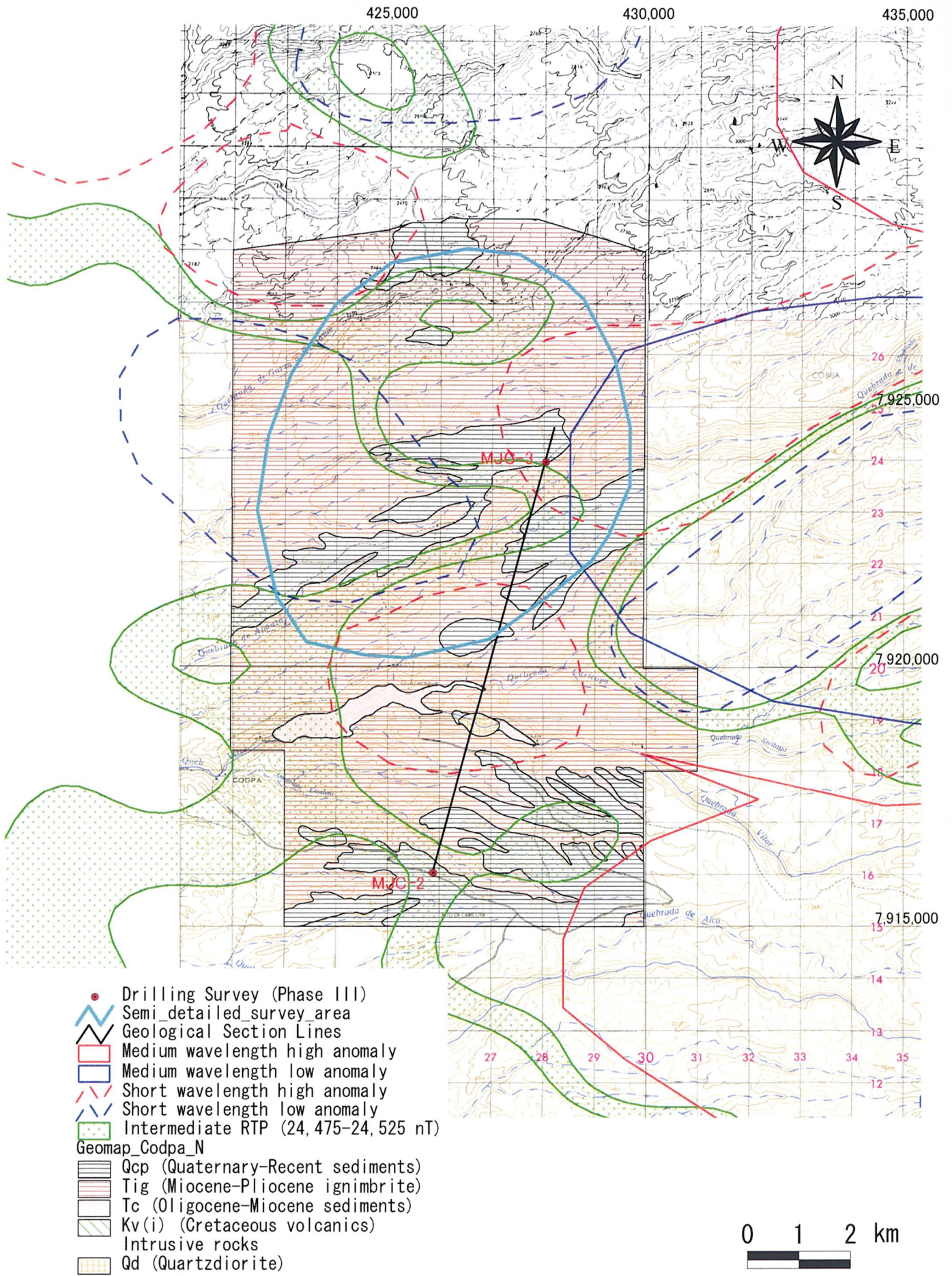
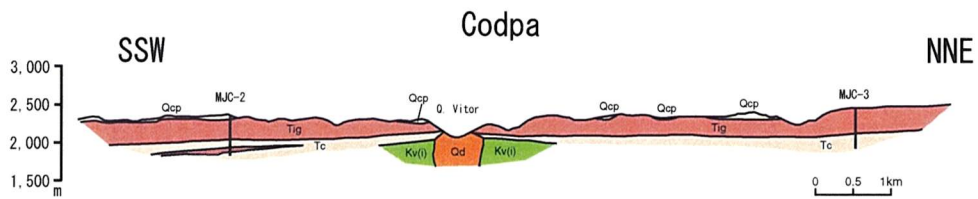


Fig. 2-2-73 Geological Map of the Area to the North of Codpa





Geologic Time		Columnar Section	Lithology	Intrusives	Mineralization
CENOZOIC	QUATERNARY	HOLOCENE ~ PLEISTOCENE	Qcp Gravel, sand	Quartz diorite (Qd) ↑	
	TERTIARY	PLIOCENE ~ MIOCENE	Tig Welded tuff Pumice tuff Fine tuff Pebbly tuff		
		MIOCENE	Tc Conglomerate		
		PALEOGENE			
MESOZOIC	CRETACEOUS	LATE	Kv(i), Qd, Kv(i) Andesitic lava/ volcaniclastics		

Fig.2-2-74 Schematic Stratigraphic Columns and Profiles of the Area to the North of Codpa